

チリ産レーズン市況



2013年産の予想集荷量は、6万～6万3千メトリックトンと、前年比約20%減の予想となっています。

弊社では、現在フレームシードレス種(ジャンボサイズ)とトンブソンシードレス種(ジャンボサイズ)の2種を取り扱っておりますが、2013年産新物に関しては、天候の影響で例年と比較し小粒傾向にあるようで、通常出荷しているサイズ(14mmUP)はもとより、その下のサイズ(13mmUP)の出荷も非常に厳しい状況にあります。チリ産レーズンは、品種によって収穫期の違いがありますが、3月中旬～下旬頃までには概ね完了する見込みです。チリは南半球で最大のフレッシュグレープの輸出国で、栽培されているブドウのほとんどが生鮮用のものです。フレッシュ市場の引き合いの強さによって、レーズン用のブドウの集荷量は大きく左右されます。2013年産新物は、これまで以上にフレッシュ市場の引き合いが強まっており、現地価格は各品種ともに昨シーズンと比較し約10～15%程度値上がりしています。

また昨年末から為替が急速に円安に推移しているため、輸入コストは大幅な値上がりが見込まれています。

チリ産レーズン輸出実績推移

(単位:メトリックトン)

年	総輸出量	日本向け輸出量
2007	61,247.7	859.3
2008	62,150.1	670.8
2009	78,297.2	627.7
2010	63,642.0	950.9
2011	70,225.2	570.5
2012	73,609.6	785.6
2013	60,000～63,000	—